

計画期間：平成 24 年 12 月～平成 29 年 3 月（4 年 4 月）

・ 中心市街地全体に係る評価

1. 平成 27 年度終了時点(平成 28 年 3 月 31 日時点)の中心市街地の概況

本市は、平成 24 年 12 月以降、認定基本計画に基づき、「誰もが楽しめるまちの形成」「便利で安心なまちの形成」「新たな来街を促す観光地の形成」の基本方針のもと事業を実施している。

認定基本計画掲載事業の進捗状況は、基本計画に位置づけた全 52 事業のうち 4 事業が完了、39 事業が実施中、9 事業が未着手となっている。

主な事業については、民間事業である「岩崎 3 丁目東地区優良建築物等整備事業（複合機能ビル建設事業）」が平成 27 年度に着工し、平成 28 年度中に完成予定となっている。複合機能ビル内に整備される「子育て支援施設事業」、「市民活動支援センター整備事業」についても、平成 28 年度中の完成予定である。「観光拠点施設整備事業」については、観光ニーズの変化を踏まえ見直しを行っていることから、事業に遅れが生じており、観光エリアの活性化には至っていない。

商店街の振興については、「テナントミックスサポート事業」、「空き店舗等対策事業」、「多世代交流モール整備事業」等により、平成 26 年度から平成 27 年度にかけて 14 店舗が商店街に出店している。特に、多世代交流モールと周辺店舗がオープンしてからは、シニアから若い方まで様々な世代が商店街に足を運ぶようになり、まちなかに活気が生まれている。

目標指標である「1 日平均歩行者・自転車通行量」と「定住人口」について、歩行者・自転車通行量はハード事業の工事時期の関係もあり、平成 27 年度調査では平成 26 年度より減少している。基準値を下回っている状況のため、今後の事業実施により更に活性化を図る必要がある。

なお、定住人口についても、人口減少が当初見込みよりも進行している状況のため、空き家の利活用や定住促進等の事業により、さらなる推進を図ることとしている。

2. 平成 27 年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

中心市街地活性化協議会では、平成 27 年度中に 2 回の協議会を開催するとともに、中心市街地活性化の取組を円滑かつ効果的に推進するプロジェクト会議や、関係者で構成される油津まちづくり会議などに参加し、情報を共有しながら官民協働の取り組みができた。

平成 27 年度は、テナントミックスサポート事業や多世代交流モール整備事業等により、商店街に多数の出店があり、商店街エリアでこれまでにない賑わいが見られている。観光拠点施設整備事業等一部事業の進捗に遅れは見られるが、岩崎 3 丁目優良建築物等整備事業も工事が着々と進んでおり、基本計画は着実に進んでいると評価する。今後は、歩行者・自転車通行量と定住人口の目標達成に向け、行政や商工会議所、民間事業者、地域住民が一体となって活性化の事業を実施する必要があると考える。

・目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
来てよかった、また来たいまち	1日平均歩行者・自転車通行量	3,599 人/日 (H23)	4,100 人/日 (H28)	3,143 人/日 (H27)		
住みたい、住み続けたいまち	定住人口	3,281 人 (H23)	3,400 人 (H28)	3,151 人 (H27)		

< 取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類 >

取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

1日平均歩行者・自転車通行量

平成 27 年 8 月の通行量調査時点では、1日平均歩行者・自転車通行量の目標値をクリアしていないものの、商店街エリアにおいて実施している「テナントミックスサポート事業」、「空き店舗等対策事業」、「多世代交流モール整備事業」等により、11 月から 12 月にかけて商店街に 10 店舗程度の出店があり、28 年 3 月に実施した市の補足調査では、全体で 5,265 人/日となり大幅な増加が見られた。商店街エリアでは、28 年度以降も IT 企業のオフィス等が入る見込みがあり、更なる通行量の増加が期待できる。

また、目標値との差が大きい観光エリアでは、「高質空間形成施設事業」により、回遊時の道路環境の改善が進んでいる。加えて、「まちづくり活動推進事業」により、生活の中に歩きを取り入れる啓発イベントや、観光エリアの資源を紹介するまちあるきツアーを平成 27 年度に実施しており、運河周辺を歩いて楽しむ環境づくりが進んでいる。今後は、ソフト事業の継続と「観光拠点施設整備事業」、「まちなか案内サイン整備事業」により観光エリアにおいても通行量の増加が期待できるため、目標達成は可能と考えられる。

定住人口

中心市街地の定住人口については、計画策定時の予測よりも人口減少が進行している状況にある。市全体の人口も減少傾向にあり、中心市街地も、市平均と同程度の減少率となっている。

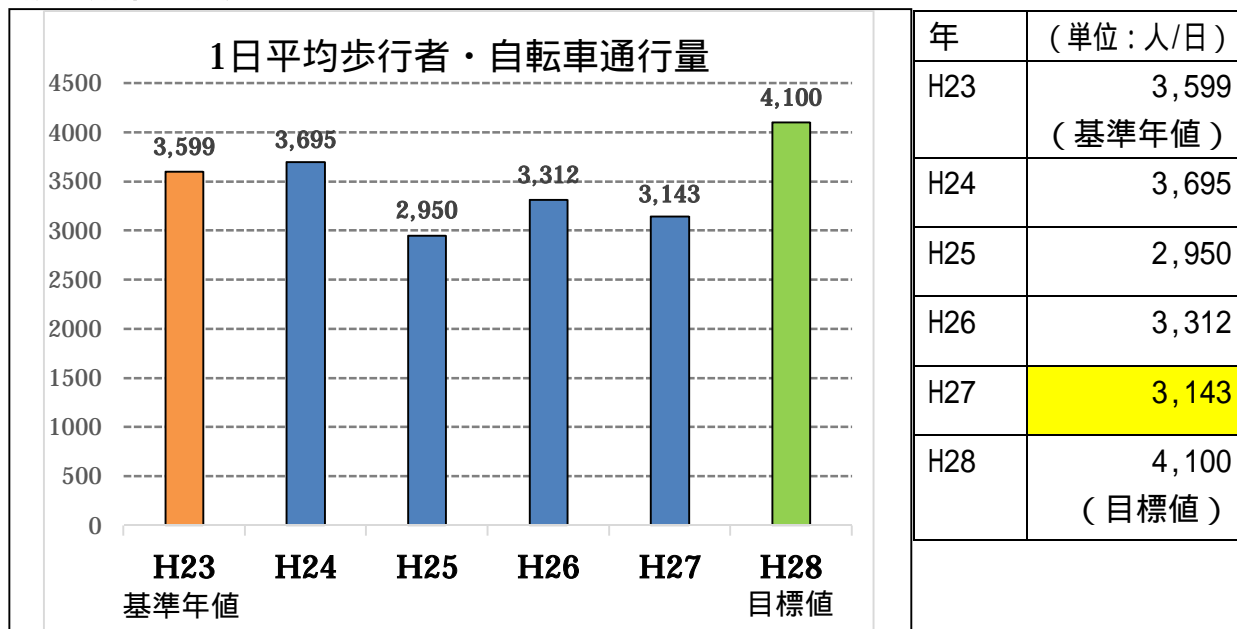
今後「岩崎 3 丁目東地区優良建築物等整備事業」等により、一定の人口は確保できる見込みであるが、エリア内に子育てに適切な集合住宅や活用できる空き家自体が少ないこともあり、「子育て世帯定住促進事業」、「空き家活用促進事業」の申し込みが少ない状況にある。今後は、貸し出されていない空き家の発掘などの対策を講じる必要がある。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップの実施から変更はない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「1日平均歩行者・自転車通行量」 目標設定の考え方基本計画 P151～P159 参照
調査結果の推移



調査方法：歩行者・自転車通行者（毎年原則として8月第一週の日、月曜日に実施）

調査月：毎年8月

調査主体：日南市

調査対象：中心市街地14地点において、9～19時に通行する歩行者・自転車の数を計測

目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・岩崎3丁目東地区優良建築物等整備事業（複合機能ビル建設事業）（地権者）

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	中心商業地の玄関口となる場所の土地の高度利用を図り、複数の機能を併せ持つ施設を建設する。
事業効果及び進捗状況	商業施設を含めた複数の機能を持つ施設の建設によって、集客を図り、賑わいを形成する。 平成27年度に工事着工しており、平成28年度中の完成予定。

・子育て支援施設事業（日南市）

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	保育士による子育て支援サービスの提供や、多くの親子が交流できる施設を設置
事業効果及び	中心市街地に安全安心な子育て環境を整備することで、子育て

進捗状況	世代の往来によりまちなかの賑わいを生み出す。 岩崎 3 丁目東地区優良建築物等整備事業で建設する複合機能ビル内に入居予定。平成 27 年度に設計が完了し、ビルの完成時期に合わせ、平成 28 年度中に工事着工、完成予定。
------	--

・空き店舗等対策事業（日南市）

事業完了時期	平成 28 年度【実施中】
事業概要	空き店舗等に出店する人に対し、個店の魅力や質の向上等に係る経費及び店舗改修費の一部を支援する。
事業効果及び進捗状況	新たな店舗が出店しやすい環境を整備することで、店舗の立地を誘導し、消費者を新たに引き寄せることで地域商業力の向上を図る。 平成 27 年度までに 14 件が事業を活用。

・多世代交流モール整備事業（株式会社油津応援団）

事業完了時期	平成 27 年度【済】
事業概要	商店街の空き店舗の一部をリノベーションし、高齢者や子育て世代、子ども達などの幅広い世代が交流できるコミュニティ施設や飲食店等を整備する。
事業効果及び進捗状況	多世代交流モール整備事業が完了し、交流スペースに加え飲食店や物販店が 11 店舗オープンしたことで、店舗周辺での歩行者・自転車通行量が 2 倍程度に増加した。（市独自調査） 加えて、訪れた方が商店街周辺を回ることによって、賑わいと回遊性の向上に寄与した。

・観光拠点施設整備事業（日南市）

事業完了時期	平成 28 年度【未】
事業概要	案内機能や回遊を促す機能を持った観光の拠点となる施設の整備。
事業効果及び進捗状況	案内機能や回遊を促す機能を持った拠点施設を整備することで観光客の滞在時間を延ばし、まちなかの賑わいを生み出す。 場所・機能の見直しを行い、候補地の選定に時間を要したため、27 年度中の工事着工はできなかった。事業期間を延長し、平成 28 年度中に工事着工、完成予定。

・歴史的由緒施設開館事業（日南市）

事業完了時期	平成 28 年度【実施中】
事業概要	登録有形文化財等を活用した観光中間拠点施設の運営。
事業効果及び進捗状況	観光環境の向上を図るため、回遊ルート上に観光案内を兼ねた休憩スペースを設置し、回遊性の向上に繋げる。

平成 25 年度 9,432 人、26 年度 8,867 人、27 年度 11,041 人の利用があった。

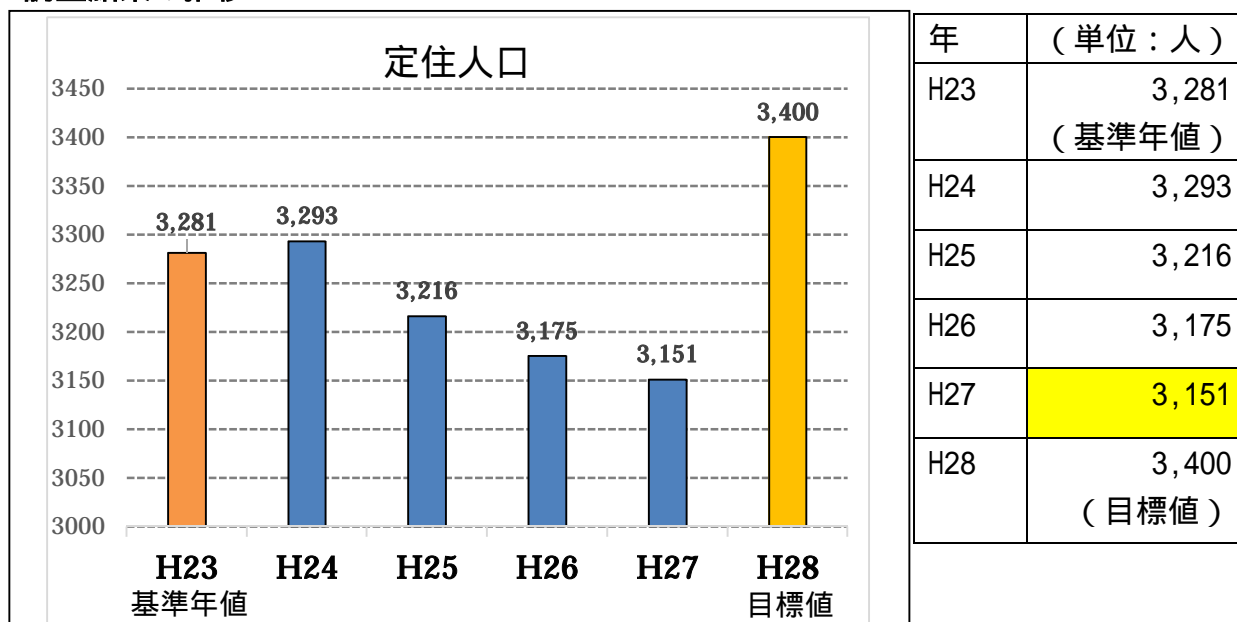
目標達成の見通し及び今後の対策

1 日平均歩行者・自転車通行量については、商業地エリアと観光地エリアを合算した人数を指標としている。全体としては、平成 24 年度に一度上昇した後、その後は基準値を下回る状況が続いている。平成 27 年度調査時点では、目標値 4,100 人に対し実績値が 3,143 人となっており、957 人下回っているが、調査地点別の通行量を確認すると、商店街を含む商業地エリアでは 27 年度通行量調査後にオープンした多世代交流モールや周辺店舗により、当初見込みの 467 人を超える増加が見られている。

今後は、複合機能ビルの商業施設や子育て支援施設により 412 人の増加を見込んでおり、市民活動支援センター等の施設整備に加え、テナントミックスサポート事業による商店街への更なる新規出店等も見込めるため、商業地エリアの通行量は増加が期待できる。

観光地エリアでは、近年の通行量は基準年度を下回った状態で横ばい状態となっているが、平成 27 年度は堀川橋の道路高質化が一部完了し、回遊を促すためのウォーキングイベントやまちあるきイベントのソフト事業も実施した。また、赤レンガ館の利用者数も増加している。今後実施される観光拠点施設整備事業に併せ、案内サインの整備や、ソフト事業も引き続き実施することで 518 人の増加を見込んでいる。以上のことから、観光地エリアについても通行量の増加が期待でき、目標達成は可能と考えられる。

「定住人口」 目標設定の考え方基本計画 P159～P162 参照 調査結果の推移



調査方法：中心市街地エリア内の住民基本台帳人口

調査月：毎年 10 月調査

調査主体：日南市

調査対象：中心市街地内居住者

目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・岩崎3丁目東地区優良建築物等整備事業（複合機能ビル建設事業）（地権者）【再掲】

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	まちなか居住を促進するため、利便性の高い商業地の中心部に、住居施設及びサービス付高齢者住宅を整備する。
事業効果及び進捗状況	商業施設、病院、サービス付高齢者住宅、住居施設からなる複合施設を整備し、安心して生活できる居住環境を整備することで定住人口の増加を図る。 平成27年度に工事着工しており、平成28年度中の完成予定。

・子育て世帯定住促進事業（日南市）

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	子育て世帯の中心市街地への移住を促進するため、家賃の一部を補助する。
事業効果及び進捗状況	子育て世代の移住を促進し、定住人口の増加を図るとともに、地域活力を向上させる。 平成26～27年度実績7件。

・住宅建築促進事業（日南市）

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	中心市街地区域内に住宅を建築し居住する人のうち、建築時に一定の条件を満たす人に建築費の一部を補助する。
事業効果及び進捗状況	空き地の利活用によって住居の所有を促進し、空き地の解消を図るとともに定住人口を増加させる。 平成25～27年度の実績なし。

・空き家活用促進事業（日南市）

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	中心市街地に立地する空き家を、みずから居住するために取得する人に対し、空き家購入及びリフォーム費用の補助。
事業効果及び進捗状況	空き家の利活用によって住居の所有を促進し、空き家の解消を図るとともに定住人口を増加させる。 平成26～27年度実績1件。

目標達成の見通し及び今後の対策

定住人口については、今後完成予定の複合機能ビルの高齢者向け住宅と分譲マンションへの入居者によって、一定の成果が得られると考えているが、計画策定当時の見込みよりも人口減少が顕著に見られることに加え、中心市街地内に子育て世帯向けの賃貸アパート・マンションが少ないことや、利活用できる空き家の絶対数が少ないことから、「子育て世帯定住促進事業」、「空き家活用促進事業」の利用が少ない状況にあり、目標達成が厳しい状況にあると見込んで

いる。対策として、中心市街地内は新築物件を建築できる土地が少ないため、空き家の積極的な活用を促すためのバンク制度の周知に加えて、移住者向けに空き家や空き地を紹介するウェブページで、中心市街地の空き家物件も掲載をするなどの情報発信も行っている。今後は、制度の周知に加え、住みやすいまちであるとの周知に努め、人口減少を抑止することで目標達成に繋げていく。